

モンタナ州立大学ビリングス校冬期 ESL 参加報告書

文学部英語英米文学科 2年 堀 百菜

今回の留学で、私は今までの英語の勉強の仕方が大きく間違っていたことに気がきました。私がこれまで勉強してきたのは受験英語で、主に文法・語彙を中心に勉強してきました。しかし、今回アメリカで生活してみて自分の勉強の仕方を大きく変えるきっかけが見つかりました。

まず文法です。文法にとらわれすぎると会話のスピードが格段に落ちます。私は耳から聞いて即座に対応出来なかったのが、1回自分で頭の中でしっかり文を構成してから、話していました。しかし、それではホストファミリーや先生相手ではいいものの、店員さんや友達とはスムーズに会話ができず相手を困らせてしまう場合がありました。私も実際、クレジットカードの使い方が特殊で分からず長い時間をかけて会話して非常に苦労しました。そのため、文法にはとらわれすぎず、練習するにあたっては毎日自分の思ったことなどを文にする練習の必要性を感じました。

次に語彙ですが、暗記する際必ず正しい発音、アクセント、イントネーションに注意する必要があると感じました。私は walk と work の発音の使い分けが上手くできず、スペルを言って理解してもらおうという体験を何度もしました。自分で思い込んでいる音が本当に正しいか分からないので覚える時にきちんと発音まで力を入れる必要があると感じました。また会話をしているうちに自分の苦手な発音のパターンが見つかりました。そこを、

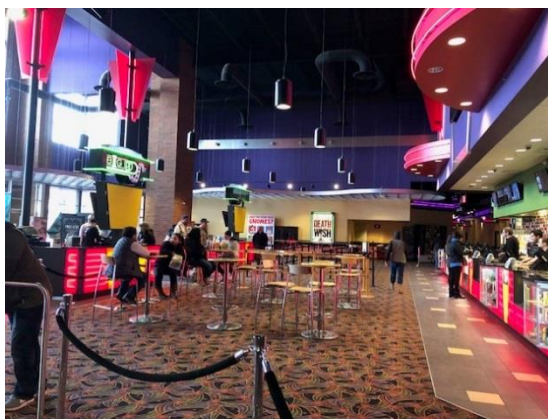


何度も練習するうちにだんだん出来るようになるのがうれしかったです。授業では、Reading, Listening, Writing, Speaking を主に学びました。どの授業もきちんと考えられていて、退屈な時間がなかったです。好きな曲の歌詞の意味を考えたり、日常生活に使える表現を学んだり、県立大でも同じ授業が受けられたら楽しいだろうと思いました。全員がネイティブの先生でしたが、聞き取りやすく発音指導も丁寧だったのでわかりやすくとてもためになりました。金曜日はフリーの日だったので、留学生のみんなでショッピングに行ったり、ジムに行ったりしました。現地の生徒になれたようで感激しました。土日はホストファミリーと過ごしました。毎週様々な場所に連れて行ってくれ

て、土日が来るのが待ち遠しかったです。私の一番の思い出は初めてスキーをしたことです。一度も習ったことがなかったため、すべて英語でレクチャーを受けました。ほかの参加者の方とも話したり、うまくいったときには褒めあったりと有意義な時間を過ごせました。聞いたことをそのまま理解し、体で表現するのは難しかったですが、スポーツを通していい体験ができたのでよかったです。また、私のホストファミリーは映画や音楽が好きだったので、映画館に行ったり、音楽の話をしていました。その中で、私が驚いたのは映画館の利用の仕方の違いです。日本では基本静かに観るのがマナーで、最初の注意喚起の映像にも出てきます。しかしアメリカでは、面白いシーンでは声を出して笑い、途中で小声ですがおしゃべりをするのが普通でした。こういう違いが、日本とアメリカで反応の違いを生み出すのだなと感じました。文化の違いは食生活にもありました。日本ではあまり生野菜をそのまま食べる機会はないと思うのですが、アメリカではみんなスナックの感覚で生野菜を食べていました。そのために野菜の値段は日本より安かったです。自分の想像をはるかに超える文化の違いに驚く毎日でしたが、だからこそほかの国のことも知りたいという興味の拡大にもつながりました。



スキー場での1枚



映画館

帰国後、英語をもっと勉強したいという意欲が高くなりました。語彙や文法を正しいやり方で、もっと学んで自分の気持ち表現するつてにしたいと思いました。どんなに素晴らしい経験をして、どんなに感情が高ぶっても、英語が出てこないときはとてもつらかったです。

日本で英語をしっかり学び、次の留学では自分の英語力をはかる、腕試しの気持ちで臨みたいと思いました。一か月という短い時間でしたが、元から好きだったアメリカが大好きになりました。行かせてくれた両親やお世話になったホストファミリー、先生に感謝しかありません。今後の私の人生に大きく影響する滞在となりました。